

## 当社の介護職員が不起訴となり、**潔白**となった報告について

＜皆様方からの、ご支援、励まし、ご信頼を頂戴致しました。誠に有難うございました。引き続きのご入居、ご安心、ご信頼を頂きますようお願い申し上げます＞

当社の運営する有料老人ホーム「ホームステーションらいふ真鶴」で介護職として勤務しておりました青木辰也（26歳）が、ご入居者への傷害容疑で逮捕されたのが本年8月18日です。その後、警察からの厳しい取調べ、検察からの過酷な取調べを受け、それでも自分自身を律し続ける精神力を持ち、青木は一貫して無罪を主張しておりました。

結果、9月30日、検察は青木の不起訴を決定します。

今まで一貫して青木が主張してきたことが認められ、青木本人が潔白となったということです。

今回、純粋な若き理想に燃えた人間を襲った**悲劇と不幸**について、当社は、皆様にその意味を、正確に伝えなければならない使命があると考えます。また、そうすることで青木の名誉を回復できるとも考えております。

この悲劇と不幸が起きた発端は、ご入居者を診療所へお連れし、診察を受けた時から始まります。その日の担当医が初見の医師であったにも関わらず、当社スタッフへの事前調査や聞き取りもなく、虐待と決めつけて警察へ通報しました。

青木本人は当初より傷害の事実を否定しておりました。当社のスタッフ、更に、ご入居者までが、青木がそのようなことをする介護職員ではないということを警察の事情聴取で話しております。

しかし、現実には、医師の主張が通り、逮捕という悲劇に繋がりました。

逮捕当日、夕方のテレビのニュース番組で実名報道が一斉に始まり、その後、マスコミ各社による実名報道によりインターネットのニュースとして一気に拡散しました。青木の逮捕は近隣住民の方々の大勢が知る事実となり、青木の名誉は大きく、深く、毀損されました。

なぜ警察は本人の言うこと、当社の介護スタッフの言うこと、更にはご入居者の言うことより、医師の主張を採用したのでしょうか。

医療と介護。その評価比重は、100：1程度でしょうか。

その明らかな評価比重の差から、警察は医療の言うことを採用したのでしょうか。

その結果、介護職として一生を捧げるべく、大学でも福祉を専攻した若き介護職員から、介護職という職を奪う結果となったのです。事実、青木は現在、介護職には就いていません。介護職への復帰は怖いとさえ言っています。

今ここで、青木の名誉回復の為、「介護」という仕事を正確に伝えることが必要だと考え

ます。

「介護」という仕事は単に食事、排泄、入浴、着替え、その他の日常生活のサポート補助ではありません。

介護される方の一人ひとりの人間存在の在り方を模索しその最も妥当と思われる交流の方法と生活作りを、来る日も来る日も 24 時間 365 日試行錯誤し、実行し続ける仕事です。果てしがない努力と工夫と勉強を必要とされまた要求される仕事でもあります。

この事を思うたびに私は当社の職員に深く感謝し、そして頭が下がる思いになります。

家族、行政、警察、検察、そして私たち一人ひとり、この事をどれだけの人が、理解してるでしょうか。いや、理解する前に見ない振りをしているのが現状ではないでしょうか。

そのような介護職を一生の仕事として全うしようとしていたのが青木です。

また、今回の件がきっかけで、優秀な人材が介護業界から流出するのではないかと、また、将来有望な人材が介護業界を志望しないのではないかと、大いなる危機感を、大変強く抱いております。

当社は、介護職の持つ幅の広さ、奥の深さを、「生きる力を引き出す介護®」を実践することで皆様に発信し続けます。そうすることで、何年後かに、医療対介護の評価比重が変化していることを確信しております。

平成 26 年 10 月 8 日

株式会社らいふ

代表取締役 吉田 伸一

(本件に関するお問い合わせ先)

株式会社らいふ

社長室 室長 渡部克明

電話 (代) 03-5769-7240